広報

こだま

2014 Vol.17

【栗田病院 広報誌】

新年のご挨拶

理事長・院長　栗田 裕文／副院長　安部 秀三

新施設オープン

小規模多機能型居宅介護＆認知症グループホーム

広報散歩 外来

フォーカス くりた人

看護師　小薗江直美

有朋会・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員といったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続けることです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張れており、患者様、利用者様、ご家族様に質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。

YUHOKAI
医療法人社団 有朋会
栗田病院
〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL：029-298-0175　Mail：yuhokai@yuhokai-kuritah.com
http://www.yuhokai-kuritah.com/

JUSE REGISTERED ISO9001 JUSE-RA-1346
MS JAB CM008

新年のご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。医療法人社団有朋会栗田病院、理事長・院長の栗田裕文です。

お陰さまで有朋会は平成25年もつつがなく、そして元気一杯に活動して参りました。患者様やご家族様、連携をいただいております諸機関をはじめとした地域の皆さま、そして有朋会職員の皆さん等々、たくさんの方々が支えて下さり、応援をして下さっているお陰と思っております。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

平成25年4月からは理事長となり、理事長兼院長を務めております。まだまだ不慣れで、十分な任が務まっていないかも知れません。お気づきの点がございましたら、遠慮なくご指摘・ご叱責を賜れば幸いです。職員の皆さんがわくわくした気持ちで、活き活きと元気に医療・介護サービスに注力できる、そんな働きやすい環境の実現に全力を尽くします。

有朋会は地域の「こころ」の健康を応援する、向上に寄与する、「こころ」を元気にしていく、そんな自負と情熱を持って平成26年も邁進して参ります。

①外来～入院医療、②地域生活支援、③認知症ケア&サポート、の3つの柱を軸とした「こころ」のケアを通して、患者様やご家族様、地域の皆さま等々、多くの方々のこころに灯りが燈り、沢山の笑顔が増えることを実現します。

その方がほっと安らいだり。ホットな熱い気持ちが湧き上がったり。そんな援助や支援をお届け出来ればと嬉しいです。

今年も皆様と手を携えながら、共に歩んでいきたいです。ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

（理事長・院長　栗田裕文）

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年は当法人が県の認知症疾患医療センター事業に再認定され、その活動を通して地域の関係者の方々とより一層連携が図られた一年でした。本当にありがとうございました。ここ数年医療を取り巻く環境は、超高齢化社会の進展や医療財源の選択と集中が図られる中、その厳しさを増しています。精神医療に関係することとしては、本年4月より診療報酬の改定、精神保健福祉法の一部改正が行われます。また、地域においては「精神障害を含めた5疾病5事業」「認知症の地域連携」などの観点から地域においてより精神医療の必要性が増してきています。これと呼応し実際の精神科医療現場においては、急性期医療の充実、難治性精神疾患への計画的な治療、慢性安定期からシームレスな地域移行などが求められ、一方、認知症医療・介護では地域の連携体制構築、早期診断と適正な介護ケアが早急な課題となっております。当法人は地域の中でまさに現在の精神医療、認知症医療介護が直面している課題をそれぞれ取り組んでおります。より先進的な取り組みを少しでも前進させるため、それぞれ職員の自己研鑽や地域との連携・対話に努めて行きたいと考えています。

本年も地域から信頼されるより良い法人を目指して、職員とともに今まで以上に取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（副院長　安部秀三）

新施設オープンのご案内

有朋会介護事業部では、平成26年5月、那珂市豊喰に「小規模多機能型居宅介護※1」および「認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）※2」をオープンさせる予定です。

私たち有朋会介護事業部の理念は、「ご利用者様が住み慣れた地域の中で安心して暮らしていただくために、ご利用者様のペースに合わせ、小規模で家庭的な個別ケアを目指す」、「ご利用者様の人権や人格を尊重し、信頼される介護サービスのご提供に努めます。」というものです。

この理念に基づいて、平成17年の介護事業部立ち上げ以来、那珂市、水戸市、ひたちなか市において介護サービスを提供してまいりました。

これまでも定員10名前後の少人数のデイサービスを中心に事業展開をしてまいりましたが、新たにオープンさせる今回の施設も、どちらも少人数でのサービスの提供を基本としています。

「小規模多機能型居宅介護」には、「通い（デイサービス）」、「泊り」、「訪問介護」といった多機能のサービスを同じ施設で、同じスタッフが提供できるという特徴があります。

これは認知症のケアにとっては大きな強みになります。いわゆる認知症の周辺症状（ＢＰＳＤ）は、環境に大きく影響を受けます。この時の環境とは物理的な環境のみに留まりません。私たちは、「関わるスタッフ」、「その方のこれまでの生活のリズム」、「居場所感」等、そこにある全ての〝もの〟や〝ひと〟を含めて環境と考えます。

来所すればいつもの場所にいつものスタッフが居る。自宅に訪問にうかがうのもデイサービスで顔なじみとなったいつものスタッフ。環境や様々な変化に敏感に反応してしまう方の不安を和らげることもできます。

「認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）」では、個室のみで、9名という少ない人数で〝家庭的な雰囲気〟のもと、〝個別的なケア〟の提供を行います。

〝家庭的な雰囲気〟、〝個別的なケア〟と一口に言ってもそのあり方は様々です。私たちはこの様に考えます。認知症の方のケアにおいての〝家庭的な雰囲気〟とは、その方がこれまで過ごして来たライフスタイルになじむ雰囲気であり、〝個別的なケア〟とは、その方のそれまでの人生・歴史性の中で培われてきた様々な思いや動機を理解してこそ実践できるものであると。「集団的で画一的なケアサービスではなく、ご利用者様一人ひとりを尊重した個別性のある介護サービスの提供。」、「認知症の方が健康な時と同じような気持ちで日常を過ごされ、大切な人生を、その人らしく過ごしていただくこと。」。これらは、私たちが介護の現場で常に心にとめて実践していることです。今回、オープンする2つの施設を加える事で、さらに厚いサービスを地域の皆様に提供できますよう努力してまいります。

今春のオープン前には内覧会を開催する予定です。詳細が決まり次第ご案内させて頂きますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

※1　「小規模多機能型居宅介護」とは、ご高齢の方が住み慣れた地域で生活を続けられる様に、ご利用者の選択や状態に応じて「通い（デイサービス）」「泊り」「訪問介護」のサービスを組み合わせてサポートを行う地域密着型のサービスです。

※2　「認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）」とは、認知症の方を対象とし、可能な限り自立した日常生活を送ることが出来るよう、食事や入浴などの日常生活の支援に加え、機能訓練等のサービスを提供する入居型の共同生活の施設です。

広報散歩

患者様の想い、私たちにできる事。

〝笑顔〟で迎えてくれた二人。
今回は、患者様が最初に関わる場所〝外来〟で勤務している看護師さんに話を伺いました。

部署紹介・法人での役割

関 常勤3名、非常勤2名の計5名でいずれも看護師が在籍しています。
業務の内容は精神看護及び一般看護を中心として外来診察に同席し、Drのフォローや患者様の誘導、採血や注射・点滴なども行います。
診察の結果、治療の必要性から入院や各サービスの利用に繋がるケースもあります。Drや患者様の想いや意図を汲み取り、的確な情報提供、各部署への繋ぎ役も重要な仕事です。

外来の看護師さんは定期的な健康診断や予防接種など、法人スタッフ全体の健康管理もしてくれています。スタッフは現在約二八〇名。その周知や調整もとても大変な作業のようです。

患者様との関わり

関 精神科を受診される患者様は、みなさんそれぞれ悩みや不安を持って来院されます。そのため、声掛けを大事にしています。顔を合わせて声を掛ける事で、患者様とコミュニケーションを図り、不安が少しでも和らぐように心掛けています。
患者様の症状はその日毎に変化し、予測の出来ない事態も起こり得ます。異変に気付き、いち早く対応できるようにする事もコミュニケーションを大切にする理由の一つです。
鹿間 そして笑顔を大切にしています。安心して病院に来てもらえるように、忙しい状況でも〝常に笑顔を忘れず〟をモットーとしています。

どんなところにやりがいを感じますか？

鹿間 初診から関われるところですね。初めて受診され診断を受け治療が続けられる中で、患者様の症状が目に見えて改善していく様子を一番身近で携わる事ができます。初めは表情も固く辛そうだった患者様も、何度か来院され治療が進むにつれ、次第に笑顔が見られるようになると自分の事のように嬉しく思います。

印象に残ったエピソード

関 「ここに来てよかった。ここに天使がいた。」と言われた事が今でも忘れられないです。私たち看護師一つひとつの何気ない対応が、患者様にとって大きな意味を持つ事に改めて気づいた出来事でした。
ここで仕事をしていてよかった、看護師でよかったと思えた瞬間でした。この言葉を、患者様の想いを私たち看護師は忘れてはいけないと思います。
精神科は特殊な科ではありますが、人の心と向き合う大事な事が学べる場所です。
私たちの関わり方ひとつでその人の人生が大きく変わります。『患者様に喜んでもらいたい』、『一人ひとりと真摯に向き合う』、『安心してもらいたい』そんな気持ちを大事にしていきたいです。

これからの外来看護師

関 精神疾患はまだまだ理解の少ない病気です。誰に相談すればいいのか、どこを頼ればいいのか。大変な思いをして病院に来てくれていると思います。そして、疾患を特定するためには、患者様自身の事や家族関係、育ってきた環境についても聞かれます。どこに原因があるのか、感じているストレスは何なのか、思い出したくない話をしなくてはならない事もあります。大変な思いの中、この病院を頼ってきてくれた方々を全力でサポートする事が私たちの役割です。
鹿間 さらに、他部署や先生とのコミュニケーションもさらに深めていきたいです。職員間の連携を深め楽しく仕事を行う事で、その想いは患者様にも届き、より明るく素敵な病院でいられると思います。
関 外来では出会いがたくさんあります。患者様、ご家族様、法人スタッフとの出会いを大切に〝私たちにできる事〟を見つけていけたらと思っています。

「ここ（外来）が天職だと感じています。」、「外来の看護師には向き不向きがありますが、私たちはこの仕事が大好きです。」、「毎日の仕事が楽しい。」と〝笑顔〟で語るお二人でした。

外来看護師　関愛子、鹿間三枝子

フォーカス くりた人

精神療養病棟勤務、こころの教室担当
看護師　小薗江直美

当院で働く、現場職員の声をお伝えします。

院内ではどのような活動を行っていますか？

普段は慢性期の方が入院されている療養病棟に勤務しています。比較的入院期間が長期の方が多い病棟であり、ADLの低下している患者様も多いので、個別性を重視し、家族に近い存在で看護できるよう心掛けています。
関わっている活動の中で中心となるのは、火曜と木曜の週2回開かれる「こころの教室」という心理教育プログラムです。
「こころの教室」とは、統合失調症と診断を受けた患者様を対象に症状や原因、それに対する薬物療法やストレスの対処法などの知識の提供を行い、病気を理解し治療意欲を高める心理的サポートを行う治療グループです。スタッフは医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・作業療法士・精神保健福祉士で構成され、当院に入院中または外来通院中の患者様が対象となります。
この教室は平成24年7月から始まり、年に60人以上参加されています。参加された患者様からは、「この教室に参加するまで自分の病気がどういうものか分からなかった」、「自分の病気と向き合う事ができた」という声が多く聞かれ、心理教育の必要性を改めて感じているところです。患者様によっては、2、3度目の参加から目に見えて変化の現れる方もいます。これは携わっている職員のモチベーションの上昇にも繋がります。

「こころの教室」で心がけている事はありますか？

患者様の想いを尊重する事に重点を置いています。病気の発症により起きたつらい症状やストレス、家族関係の悪化など多くの悩みが語られる中で、病気にばかり目を向けるのではなく、患者様を取り巻く社会背景や想いを知り、寄り添う看護ができるよう心掛けています。患者様自身が病気と主体的に関わり、社会生活を送っていくためのお手伝いができればと日々業務の質向上を目指しています。
また、症状や内服による副作用についてなど知識の提供も大きな役割となっています。患者様に分かりやすく受け入れやすい説明ができるよう意識しています。患者様の中には、医師との診察時に言いたい事が言えない、聞くのを忘れたと話される方もいます。患者様の想いを医師に伝達する事も大切です。
私たち病棟看護師は日中の看護はもちろん、夜勤もあるので、患者様の活動をより広い視野で関わる事のできる職種です。看護師独自の視点で患者様の想いを知る事ができるのです。

印象に残っているエピソードはありますか？

急性期病棟に入院中の20代男性の患者様と外来通院中の40代女性の患者様が同じグループになり教室に参加された時のエピソードです。
男性患者様が自身の体験談を振り返っている場面で、急に症状に変化が見られ、落ち着かなくなり、悲観的な言動を繰り返す様子が見られました。過去の恐怖体験を回想して大きなストレスが掛かり、不安定な状態になったと思うのですが、女性患者様から「○○さんの気持ちはすごく分かります。でも、取り返しのつかない事は無いんだよ。」と親身で温かい言葉掛けがあり、男性患者様はその言葉をキッカケに次第に落ち着きを取り戻していきました。つらい経験をしてきた患者様同士ならではのやりとりに驚きと感動を覚えました。こういったエピソードをもとに医療者として、患者様に必要な事はなにかを常に追求し、患者様本来の力を取り戻せるようなお手伝いができればと思っています。

今後の目標を教えてください。

心理教育に携わって深く感じる事は、一人ひとりの患者様と関わる時間は一つとして同じものはなく、貴重な時間であり、私たち医療者の発した言動は患者様に大きな影響を与えます。私たち医療者が患者様にとって信頼できる存在であるために、豊富な知識の習得が必要です。
そして自分の考えだけにとらわれず、多職種で連携し、情報共有によって生まれる幅広い視点を活用した心理教育の実践を目指していきたいです。
また、統合失調症の治療の中で再発防止はとても大きく難しい課題となっています。少しでもこの課題に近づけるよう「こころの教室」を通して学んでいけたらと思っています。

診療案内

外来担当医一覧表

受付時間　午前 8:00 ～ 11:30 ／ 午後 11:31 ～ 15:00
診察時間　午前 9:00 開始　　／ 午後 13:30 開始

	診察室	月	火	水	木	金	土
午　前	1 診	安部	片野	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	堤	高橋	堤	田口	堀	第3,5 週 吉川 第 2 週 鈴木 第 4 週 安部
	3 診				木滝	太刀川	高橋
	5 診						田口
午　後	1 診	栗田					休診
	2 診		袖山	木滝		第2,4 週 安谷屋	
	3 診		佐藤	竹下		渡辺	
	6 診					上月	

＊精神科外来は完全予約制になります。
＊当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します 。
　予約電話対応時間　月～土（祝日を除く）9:00～17:00　TEL.029-298-0175

■＝内科

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

関連施設

認知症専用デイサービス

「クリクリ瓜連」
〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7
TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558

「クリクリ豊喰」
〒311-0117 茨城県那珂市豊喰28-9
TEL.029-353-2056 FAX.029-353-2057

「クリクリ住吉」
〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6
TEL.029-248-1001　FAX.029-248-0215

「クリクリ市毛」
〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2
TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263

「クリクリ青柳」
〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5
TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

グループホーム・ケアホーム

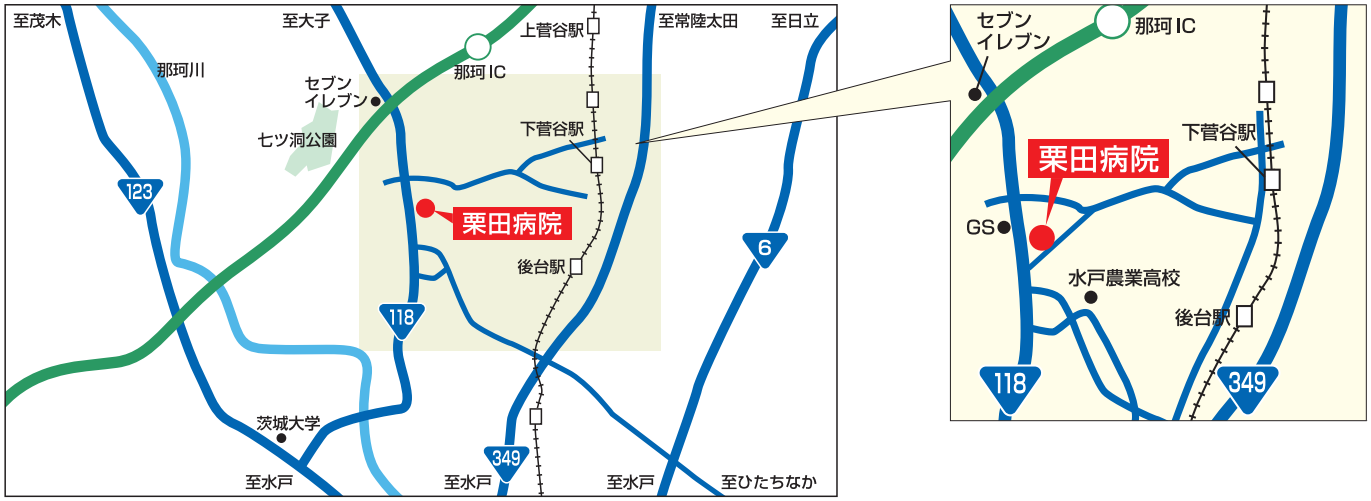
「くりの木荘」
〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1
TEL.029-295-7652

ケアホーム

「くりくり」
〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1
TEL.029-295-7680　FAX029-295-7681

「くりあん」
〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2
TEL.029-231-2280　FAX029-231-2281

自立訓練（生活訓練）事業所

「くりの実」
〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL＆FAX 029-295-1834

アクセスマップ